

- 学校・家庭・地域で心力「心の力」を育てる10のキーワード
- 用語解説
- 厚真町教育振興基本計画の目標指標
(平成28年度～平成32年度)

＜資料＞

- 厚真町民憲章
- 町民体力づくりの町宣言
- 厚真町教育目標

□学校・家庭・地域で心力「心の力」を育てる10のキーワード

	心を動かす 場面や方法	観 点	学 校	家 庭	地 域
1	知的好奇心 の喚起	<ul style="list-style-type: none"> ・目新しいことに出会う、実物に触れる ・既習の知識や考えにズレを起こす ・不思議だ、なぜだろう ・もっと知りたい、解きたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、特活、道徳、総合的な学習の時間 ・英語教育、ICT教育 ・地域学習、ふるさと学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験 ・安らぎのある家庭 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験 ・地域素材の開発
2	新しい「ひと・もの・こと」との出会いや関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい発見、気づき ・驚き、感動、共感 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間 ・社会体験・職場訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・年中行事体験（お正月、節分、雛祭り、端午の節句、七夕等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験 ・地域素材の開発
3	価値ある体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を磨く ・価値あるものに気づく、感動する ・五感に触れる（見る、聴く、触れる、味わう、嗅ぐ） ・ものやことに潜む「ハッ」としたことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の人の話を聞く ・本物に触れる ・自然や科学、生命の神秘さや有難さに触れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜明け、夕焼け、満天の星空 ・海、山、川などでの自然体験 ・遊びに没頭する ・美術館、博物館 ・演劇、音楽鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験 ・社会体験 ・昔遊び、群れ遊び
4	協同・共感的な学びや体験の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合い、協力する学習 ・共に学び、高め合う ・共に目標や課題を達成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した学級づくり ・学習の協同性 ・運動会、体育大会、学習発表会、学校祭、部活 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子での協同作業・体験 ・親子の触れ合いやコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年団活動、子ども会活動 ・異年齢集団での体験、協同作業
5	成就感、達成感、探究心、向上心を持たせる	<ul style="list-style-type: none"> ・分かった、楽しい、面白い（快の感情） ・最後までやり遂げた体験 ・もっと上手くなりたい ・不思議だ、なぜだろう ・学習の必然性、必要感 ・成功への期待感 ・自己決定感 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意欲や興味関心を引き出す授業の工夫（教材研究・教材開発、魅力ある目標の設定と学習の見通し） ・スポーツ記録会 	<ul style="list-style-type: none"> ・食習慣や生活リズムの定着 ・家庭学習の励まし ・家族の一員としての取組（手伝い） ・料理や手芸、日曜大工 ・キャンプ、野外活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ（マラソン、スケート記録会等） ・英語発表会、英語暗唱大会 ・各種習い事の発表会
6	自己有用感・有能感、自己肯定感、適度な自尊感情の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長に気づき、自信を持つ ・長所や良さを認められたり、ほめられたりする ・自分の居場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・できないと思ったことや苦手なことができるようになる ・自分の役割を果たす 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの良さを認め、励ます（参観日、スポーツ・文化活動、地域活動） ・通知表や成績への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種チャレンジの場の設定
7	教師や大人の感化力	<ul style="list-style-type: none"> ・教師（大人）の本気が、子どもの心を動かす ・学ぶ教師がいるところに、学ぶ子どもが育つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の情熱とやる気 ・子どもへの愛情と教育信条 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛情を込めた子育て ・祖父母を大切にする姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロの技と心に学ぶ
8	憧れのモデルや尊敬できる人がいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がなりたいと思うモデル（人物）がある ・尊敬する歴史上の人物がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が生き方の範を示す ・正しい生き方を学ぶ道徳教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものよいモデルになる ・子どもから尊敬される親になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを見守る大人の存在 ・身近にいる働く人の存在
9	豊かな読書体験	<ul style="list-style-type: none"> ・読書による感動・共感体験 ・豊かな感性や情操、思いやりの心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム ・読み聞かせ ・並行読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・親による読み聞かせや家族読書 ・読書の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・読書感想文コンクール
10	キャリア教育、職業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標や役割を見出す ・自分らしい生き方の実現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望、志を持つ ・職場職業体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の歩み（成功と失敗）を子どもに語る ・親の仕事を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の様々な思いが分かる ・プロの技と心に学ぶ

□用語解説

— あ行 —

I C T (P19, 26, 35, 39, 40, 59, 67, 75, 83) Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。
アイデンティティー(P13) 自分は何者であり、何をなすべきかという個人の心の中に保持される概念。
厚真町教育研究会(P59) 教職員が連携し、教育・文化の振興に役立たせるための研修を深め、教職人の資質の向上を図るとともに、児童生徒のための各種行事を実施し、教育活動の充実を図ることを目的とする厚真町内の小・中学校の教職員による自主的な研究組織。
イングリッシュキャンプ(P42) 外国人（ALTや留学生等）とすべて英語による体験活動などを通じて、「生きた英語」を学んで英語力を高め、国際感覚を磨くキャンプ。
インセンティブ(P28) 意欲向上や目標達成のための刺激策。
インターネット社会(P44) インターネットを通じて、情報提供や情報共有が出来る社会。
A L T (P19, 41, 42) 小・中高校などの外国語の授業で日本人教師を補助する外国語指導助手。
A D H D (P38) 多動性（過活動）、不注意（注意障害）、衝動性を症状の特徴とする神経発達症もしくは行動障害。
S N S (P75) ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称で、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWEBサイト。
N P O (P8, 28, 73) 「Nonprofit Organization」の略。非営利組織。政府・自治体や企業とは別に社会的、公益的な活動を行う非営利の組織（団体）。
エピペン(P55) 食物アレルギーなどによるアナフィラキシー（急性の全身性かつ重度なアレルギー反応の一つ）に対する緊急補助治療に使用される医薬品。
L D (P38) 基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すもの。

— か行 —

外部評価委員(P3) 教育に関する事務の管理と執行状況について点検、評価を行うため、教育に関する学識経験者と公募による委員で構成された外部評価委員会の委員。
学習指導要領(P6, 14, 25, 26, 34, 40, 48) 法令に基づいて国が定めた教育課程の基準で、各教科・科目、特別活動などの目標、内容、内容の取り扱い等を大綱的に示したもの。
学校支援地域本部(P16, 58) 地域住民の学習支援や登下校の安全確保などの学校支援活動を通じて、教員が子どもと向き合う時間の確保を図るなど、地域全体で学校教育活動を支援する体制
学校司書(P49) 専門的な知識・経験を有する学校図書館担当事務職員。
学校図書室図書標準(P48) 公立の義務教育諸学校において、学校図書室の整備を図る際の目標として、学級数に応じて設定した標準冊数のことであり、平成5年3月に文部省（当時）が定めたもの。
加配教員(P35) 義務教育標準法や高校標準法に基づいて算定される公立学校の教員定数に上乗せして文部科学省が配置する教員。
カリキュラム(P6, 14, 29, 41, 42) 「教育課程」と同義。
帰属意識(P15, 30) ある集団に自分が属している、その集団の一員であるという意識。
規範意識(P7, 11, 12, 15, 25, 30, 43) 道徳、倫理、法律等の社会のルールを守ろうとする意識。
義務教育学校(P5) 学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現行の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う新たな学校の種類。
キャリア教育(P8, 19, 36, 83) 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。
教育課程(P6, 19, 29, 34, 35, 37, 63) 学校教育の目的や目標を達成するため、児童生徒の心身の発達に応じ、教育の内容を授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画。
教育課程特例校(P14, 41, 42) 文部科学大臣が、学習指導要領等によらない教育課程を編成して実施することを認め、指定した学校。

教育サポーター (P35) 小学校などにおいて、工夫を凝らした授業を開催して、児童一人一人の学びを充実させ、学力の向上を図るために配置された教育活動を行う人。	自己有用感 (P12, 25, 27, 64, 83) 自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということを自分自身で認識すること。
教職員免許更新制度 (P59) 定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ることを目指すために設けられた制度。	自尊感情 (P27, 83) 自分には価値があり尊敬されるべき人間であると思える感情のこと。
グローバル化 (P6, 7, 13, 25, 29, 31, 41) 資本や労働力を国境を越えた活動が活発化とともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって世界における経済的な結びつきが深まること。	指導主事 (P20, 59) 都道府県及び市町村の教育委員会に置かれる専門的教育職員で、教育委員会所管の学校に対して、指導や助言を行う。
研究指定校 (P59) 学校が教育委員会などから指定を受け、特定のテーマについて実践的な研究を行う制度。学力向上、道徳教育、体験活動、キャリア教育、武道指導、伝え合う力の育成、などさまざまなテーマが設定されている。	指導要録 (P59) 学校において児童・生徒・学生の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿。
校務支援システム (P20, 40, 58, 59) 教職員の校務の負担を軽減するとともに、児童生徒の成長を教職員全体で見守るきめ細かな指導の充実等を図ることを目的に学校や児童生徒に関する様々な情報をデジタル化し構築された教職員間共有のシステム。	自閉症 (P38) 社会性の障害や他者とのコミュニケーション能力に障害や困難が生じたり、こだわりが強くなったりする神経発生的障害の一種。
校務分掌 (P58) 学校内における運営上必要な業務分担。	社会科副読本 (P56, 57) 児童が住んでいる地域を取り上げた社会科の副教材。
公立高校配置計画 (P69) 高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るための計画。	就学援助制度 (P67) 経済状況が厳しい家庭の小・中学生に、学用品費、学校給食費、修学旅行費などを援助する制度。
コーディネーター (P37) ものごとを調整する役の人。	小1プロブレム (P63) 小学校第1学年において、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解消されず、授業中に座っていられない、教師の話を聞かない、集団行動が取れず適応できない状態のこと。背景に、基本的な生活習慣が身に付いていないことやコミュニケーション能力の低下等が取り上げられている。
心のバリアフリー (P37) 世の中に存在しているさまざまな障壁を取り払い、障害のある人、高齢者、妊娠中のひとなどが不便なく暮らすことがで、きるようになること。	小中一貫教育 (P5) 初等教育（一般の小学校で行なわれている教育）と前期中等教育（一般の中学校で行なわれている教育）の課程を調整し、無駄をはぶいて一貫性を持たせた体系的な教育方式。
こども理解支援ツール『ほっと』 (P45) 北海道教育委員会と北海道医療大学が共同で開発した児童生徒のコミュニケーション能力や日常生活等への満足度、精神的な安定度など、児童生徒をより深く理解するために必要な情報を計画的、総合的に測定することができるシート。	情報モラル教育 (P39, 40) 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を情報モラルと定め、各教科の指導の中で身に付けさせる教育。
コンテンツ (P40) (特に、電子的な手段で提供する) 情報の中身。	食育 (P30, 54) 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる。
コンプライアンス (P59) 法律や社会的な通念を守ること。法令順守と訳されることが多い。	情報セキュリティポリシー (P40) 組織における情報資産の情報セキュリティ対策について、総合的・体系的かつ具体的にとりまとめたもの。
— さ行 —	スクールガード・リーダー (P66) 各自治体の教育委員会から委嘱された防犯の専門家(警察官OBなど)で、地域学校安全指導員ともいう。学校の防犯体制及び学校安全ボランティア(スクールガード)の活動に対して専門的な指導を行う。
自己肯定感 (P12, 25, 27, 64, 83) 自分は生きる価値がある、だれかに必要とされていると、自らの価値や存在意義を肯定できる感情。	

スポーツ推進委員 (P18, 80)

市町村のスポーツ推進のための事業の実施に関する連絡調整や住民へのスポーツ実技の指導、助言を行う市町村教育委員会が委嘱する委員。

— た行 —**地域コミュニティ (P5, 8, 16, 28, 30, 70)**

地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭りに関わり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会、あるいはそのような住民の集団。

知識基盤社会 (P7, 29, 34, 61, 76)

新しい知識、情報、技術が政治、経済、文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会。

中1ギャップ (P63)

中学校第1学年の生徒が、小学校から中学校への進学に際し、大きな環境の変化に適応できず、問題行動等を引き起こしやすい状況にあることの通称。

中央教育審議会 (P6, 25)

文部科学省におかれている審議会である。中教審（ちゅうきょうしん）と略することもある。

通級 (P37)

特別支援教育の一つで、小・中学校の通常の学級に在籍している軽度の障害児が、障害の状態に応じて通常の学級に在籍していくながら個別的な特別支援教育を受けること。

デジタル教科書 (P39)

コンピューターやソフトウェアなどあらゆるデジタル技術を使って実現される学習教材。

デジタルコンテンツ (P35)

情報の内容、中身で、デジタル形式をしているもの。

電子黒板 (P39)

電子技術を導入した黒板やホワイトボードの総称。

道徳教育推進教師 (P43)

校長の方針の下に、各学校における道徳教育の推進を中心となって担う教師。すべての小・中学校に位置付いている。

— な行 —**ノーマライゼーション (P19, 37)**

障害者も、健常者と同様の生活が出来る様に支援するべき、という考え方。

— は行 —**非違行為 (P59)**

非法行為と違法行為のこと。行政職員などが、公的もしくは私的に違法していない行為。

ブックスタート (P76)

自治体が行う0歳時健診などで、絵本を開く楽しい体験とともに、赤ちゃんに絵本を手渡す活動。

文化財顕彰サイン (P79)

顕彰された文化財について、そのものの名称や説明などを記したもの。

米国シェリダン校 (P42)

アメリカ・オレゴン州にある日本語学校。本町の中学校と年賀状やビデオで交流しているほか、平成27年6月にはシェリダン校生徒が来町し、本町の中学生宅にホームステイなどを行い交流を深めている。

— ま行 —**無線 LAN (P39)**

ケーブルを使わず、電波や光などを使って通信するシステム。

メタ認知力 (P26)

現在進行中の自分の思考や行動そのものを対象化して認識することにより、自分自身の認知行動を把握することができる能力。

メンタルヘルス (P60)

精神面における健康のこと。

モジュール (P14, 42)

10分、15分などの時間を単位として、取り組む学習形態。

— や行 —**有害サイト (P39)**

主に青少年の健全な育成において好ましくなく、閲覧・利用に適さないと見なされる内容を含み、接続を制限するサービスや親が監視し、制限をかける機能やサービスの対象とされるWebサイトの総称。

— ら行 —**レファレンスサービス (P22, 76, 77)**

図書室の資料などを使って、調べものを助けるサービス。

— わ行 —**私たちの道徳 (P43, 44)**

国が作成した道徳教育用教材。

□厚真町教育振興基本計画の目標指標（平成28年度～平成32年度）

現況年度は平成27年度としています。それ以前のものは（ ）内に（H26）のように記述しています。

(学校教育)

基本方針	指標の概要	現況	目標値
1. 確かな学力の育成	○全国学力・学習状況調査において「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と回答した児童・生徒の割合（小6、中3）	小国 84.8% 小算 97.0% 中国 93.3% 中数 73.3%	100%
	○全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を100とした場合の本町すべての教科の平均正答率	小国A 110 小国B 119 小算A 112 小算B 116 小理 114 中国A 103 中国B 110 中数A 103 中数B 104 中理 112	毎回の学テにおいて全学校、全教科100以上
2. キャリア教育	○全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っている」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 84.8% 中 60.0%	100%
3. 特別支援教育の充実	○対象となる児童生徒の個別教育支援計画の策定率	小 100% 中 100%	100%
4. 学校ICTの活用による新たな学びの推進	○ICT機器一式の整備数(電子黒板機能付きプロジェクター・書画カメラ・指導用タブレット・無線LAN環境等)	小 1式 中 0式	小 12式 中 6式
5. 国際社会に絆を広げるコミュニケーション能力の育成	○厚真町英語学習アンケート（小学生対象）において、「Eタイムやコミュニケーション科の授業が楽しいです」について、「とてもそう思う」「そう思う」の児童の割合	87%	100%
	○厚真町英語学習アンケート（中学生対象）において、「英語の授業は楽しいです」について、「とてもそう思う」「そう思う」に回答した生徒の割合	80%	100%
	○厚真町英語学習アンケート（中学生対象）において、「コミュニケーション科の授業は楽しいです」について、「とてもそう思う」「そう思う」に回答した生徒の割合	75%	100%
	○中学卒業時において英語検定合格率3級以上の割合	※現況値なし	50%以上
	○小学校卒業時において児童英検ジュニア（シルバー）の合格率	ブロンズ 92% (26年度)	シルバー 75%
	○厚真町英語学習アンケート（中学生対象）において、「諸外国の人々と交流したり、異なる文化や生活習慣などを知ろうとする意欲が高まった」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合	68%	100%

基本方針	指標の概要	現況	目標値
6. 豊かな心の力を育む教育の推進	○全国学力・学習状況調査において、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 54. 5% 中 76. 7%	100%
	○全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあると思う」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 42. 4% 中 10. 0%	50%以上
	○全国学力・学習状況調査において、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 15. 2% 中 10. 0%	50%以上
	○全国学力・学習状況調査において、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 75. 8% 中 76. 7%	100%
	○全国学力・学習状況調査において、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」について「当てはまる」と回答した割合	小 24. 2% 中 20. 0%	50%以上
	○全国学力・学習状況調査において、「学校のきまり（規則）を守っていますか」について「当てはまる」と回答した割合	小 42. 4% 中 73. 3%	100%
7. いじめ問題・不登校等の防止の対応	○全国学力・学習状況調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 87. 9% 中 83. 3%	100%
	○文部科学省調査における「いじめが解消しているもの」の割合	100%	100%
8. 生徒指導・教育相談の充実	○児童相談所・警察等からの通報等	0件 (26年度)	0件
9. 読書活動の推進	○全国学力・学習状況調査において、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の設問に対し、「10分以上」と回答した児童生徒の割合	小 72. 6% 中 50. 0%	100%
	○厚真町学習アンケートにおいて、「本を読むことが好きですか」について、「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童生徒の割合	小 84. 6% 中 79. 3%	100%

基本方針	指標の概要	現況	目標値
10. 体力・運動能力の向上	○新体力テストにおいて体力合計点の全国平均を100.0とした場合の厚真町の児童生徒の値 ※小学5年及び中学2年以外の全国平均は平成26年度の数値	小1男 118.7 小1女 104.5 小2男 102.2 小2女 114.3 小3男 100.2 小3女 99.4 小4男 97.6 小4女 94.3 小5男 102.8 小5女 99.8 小6男 96.8 小6女 101.0 中1男 92.3 中1女 106.3 中2男 74.6 中2女 109.0 中3男 92.7 中3女 99.2	すべての学年で100以上
	○新体力テストにおいて、週1日以上体育の授業以外で運動・スポーツをすると回答した小学校5年生の割合	100%	100%
11. 健康の保持増進	○12歳児及び15歳児の永久歯の平均未処置歯数	小6年生 0.06本 中3年生 0.60本	0本
	○BMIにおいて、普通体重の範囲(18.5以上25未満)の児童生徒を割合	小(1~3年)男 87.7% 小(1~3年)女 81.8% 小(4~6年)男 73.7% 小(4~6年)女 86.5% 中男 82.1% 中女 93.9% (26年度)	小90%以上 中90%以上
	○全国学力・学習状況調査において「朝食は毎日食べていますか」について、「毎朝食べている」と回答した児童生徒の割合(小6、中3)	小 93.9% 中 76.7%	100%
12. 学校給食の充実	○学校給食における厚真産食材の使用状況(重量ベース)	34.4% (26年度)	40%以上
	○学校給食における小・中学校全体の1週間の平均残食率	5%	5%以下
13. ふるさと教育の推進	○全国学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という設問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 84.9% 中 73.4%	100%
	○厚真町学習アンケートにおいて、「ふるさと厚真が好きですか」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合	※現況値なし	100%
14. 小・中学校の連携・接続の推進	○保・小・中・高校間で交流(教員の乗り入れ、児童生徒のスポーツ・文化交流等)を行う学校の割合	50%	100%
15. 開かれた学校づくりの推進	○コミュニティ・スクールを導入している学校数	0校	4校

基本方針	指標の概要	現況	目標値
16. 教職員の資質・能力向上	○授業づくり研修会の教員の参加率	90.74%	100%
	○【再掲】全国学力・学習状況調査において「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かる」「どちらかといえばよく分かる」と回答した児童・生徒の割合（小6、中3）	小国 84.8% 小算 97.0% 中国 93.3% 中数 73.3%	100%
17. 子どもたちの安心・安全の確保	○警察などと連携した交通安全教育を計画的に実施している学校の割合	100%	100%
	○防犯教室や防犯訓練を計画的に実施している学校の割合	100%	100%
	○地震や津波などを想定した防災訓練を計画的に実施している学校の割合	100%	100%
18. 快適な教育環境の整備・充実	○学校図書館標準を達成している学校の割合	75%	100%
	○【再掲】ICT機器一式の整備数（電子黒板機能付きプロジェクター・書画カメラ・指導用タブレット・無線LAN環境等）	小 1式 中 0式	小 12式 中 6式
19. 北海道厚真高等学校の教育支援	○新入学者数	37人	40人

(社会教育)

基本方針	指 標	現 況	目標値
20. 家庭における教育力の向上	○家庭の教育力向上に資する保護者向け学習機会の開催数	幼児期 2回 小学校 3回 中学校 3回	幼児期、小・中学校各段階で学習機会を年3回(9回)以上提供
	○インターネットにつながる電子メディアの利用ルールを定めている家庭の割合	60%	100%
21. 地域の教育力を生かした青少年の健全育成の推進	○放課後子ども教室の参加率	89% (26年度)	100%
	○小・中学校の学校支援ボランティアの活動人数	113人 (26年度)	160人
	○青少年の年間の非行認知件数	0件 (26年度)	0件
22. 生涯を通じた多様な学習活動の推進	○生涯学習事業参加者の満足度	77% (26年度)	80%
	○文化団体の単位団数	26団体 (26年度)	②現状数以上
23. 人材を育む読書活動の推進	○貸出密度(貸出冊数÷人口)	4%	5%
	○【再掲】厚真町学習アンケートにおいて、「本を読むことが好きですか」について、「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童生徒の割合	小84.6% 中79.3%	100%
24. 文化の継承と文化財の保護・活用の推進	○視察・研修対応、見学会・体験学習等の参加者数	1,074人 (26年度)	1,200人
	○文化関連視察や研修での町内宿泊者数	53人 (26年度)	100人
	○町民による文化財ガイドの養成数	3人 (26年度)	5人
25. スポーツの推進と健康づくり	○生涯スポーツ振興事業の年間参加人数	1,920人 (26年度)	2,300人
	○スポーツセンター・スタードーム年間利用人数	39,000人 (26年度)	45,000人

厚真町民憲章

わたくしたちは、勇払原野の風雪に耐え、たくましい精神と遠大な理想をもって、平和と繁栄の道を歩み続ける厚真の町民です。

ここに、わたくしたちの心構えを定めて、誇り高い町づくりに努めます。

- わたくしたちは、厚真の町民です。

自然を愛し、きまりを守り、うるわしい町をつくりましょう。

- わたくしたちは、厚真の町民です。

若人の未来に夢と希望の持てる、明るい町をつくりましょう。

- わたくしたちは、厚真の町民です。

豊かな資源を生かし、産業のさかんな町をつくりましょう。

- わたくしたちは、厚真の町民です。

じょうぶながらだで和を保ち、楽しい町をつくりましょう。

- わたくしたちは、厚真の町民です。

先人の心を心とし、永久に榮える町をつくりましょう。

(昭和45年9月1日制定)

町民体力づくりの町宣言

わたくしたちは、豊かで住みよい郷土を築くため、次の目標をかかげて、町民こぞって体力づくりに努めることを誓い、ここに「町民体力づくりの町」を宣言します。

- わたくしたちは、厚真の恵まれた自然の中で、働くことに感謝し、そのよろこびの中でたくましい体力づくりに励みます。
- わたくしたちは、家族、職場、地域ぐるみで、スポーツ、レクリエーションに進んで参加し、健やかな体と心を養うよう心がけます。
- わたくしたちは、工夫と実践により、自分の健康は自分で守り、体力づくり活動を通じて人の和を広げ、明るい家庭、明るい社会づくりに努めます。

(昭和55年8月24日制定)

厚真町教育目標

「自然と文化を愛し ひろい心で活力に充ち
生涯学びつづける人間の育成」

学校教育目標

1. 豊かな心を培い、人間や自然を思いやる実践力を育てる。
2. 知性を磨き、意欲的に学び続ける態度を育てる。
3. 生命の尊さを知り、自ら心身を鍛える態度を育てる。
4. 自らを律し、公民としての連帯感や責任感を育てる。
5. 郷土を愛し、国際社会に生きる自覚と態度を育てる。

社会教育目標

1. 豊かな自然を愛し、遺産や伝統を受け継ぎ、地域文化の創造に努めましょう。
2. 心のふれあいを大切にし、うるおいのある地域づくりに努めましょう。
3. スポーツに親しみ、たくましい体と心を養い、活力ある生活の習慣化に努めましょう。
4. 生涯にわたり、学習する習慣をもち、生きがいのある生活の向上に努めましょう。
5. 広く世界に目をむけ、日本人としての自覚と誇りをもち、国際理解と親善に努めましょう。

(平成3年4月改訂)

厚真町教育振興基本計画
発行 厚真町教育委員会

TEL (0145)-27-2494
FAX (0145)-27-3178
